



# 三月の俳句

( 2 0 2 2 / 0 3 )



## 目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
13	8	1
）	）	）

嘉月（かげつ）・桜月（さくらづき）  
花見月（はなみづき）・花月（かげつ）  
季春（きしゅん）・夢見月（ゆめみつき）  
建辰月（けんしんげつ）  
春惜月（はるをしみつき）

（宇佐美保幸）メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに  
巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

三月の庭の小鳥はすばやくて  
三月や瀬戸の水面は輝いて  
弥生三月パソコンラック吾の城

春焚火秘密を焼いて音変わる  
ぽぽぽと春が来たればぽぽあまた  
陽のかけら集めて伸びるつくしかな

雛飾るコンビニありてATM  
孫作る紙雛飾り酒を酌む

今生きる我を励ます牡丹の芽  
このままに今が一番牡丹の芽

啓蟄に何も出て来ぬ絶滅し  
啓蟄や虫も食料自然食

東京は天国地獄花辛夷



花辛夷ほんたうの空見上げけり

牡丹雪もつれたる世を隠しけり  
スパーリング吐く息と汗春の雪

ありのままさいて浮かれず三極や  
三極の花のそれぞれ行き先は

沈丁花無駄とわかりて匂いけり

沈丁花沈思黙考雨に濡れ

沈丁花脳味噌深くその香り

れんげ野は昭和の遺産神あらば  
拾った恋レンゲ畑に捨てに行く

初蝶は誰の指にも近寄らず  
滑走路そこは危険だ春の蝶  
牽制し蝶と蝶とがすれ違ふ



春の蝶ひらがな描き草書体  
宇宙にエレベーターも蝶に風  
生まれたる蝶にこの世は生きづらく

花粉症の女が泣いてうろたえて  
花粉症今日も涙の日々となり

レンガ敷き歩道あちこち草青む  
草青む断捨離進む歳なれど

東京のあまたの坂に春時雨  
東京の全ての坂に春時雨  
春雨やパソコン湿る昏い部屋

乗り換へて菜の花一面車窓かな  
蛸壺も菜の花生けて余生かな  
私たち無印夫婦春ごたつ



伝えたいもどかしくもあり紫木蓮  
老人の喜怒哀楽や紫木蓮  
ゴジラゴジラゴジラの絵本春うらら  
図書館でいびきをかいて春うらら

諸葛菜踏まれて増えておとなしく  
かたすみに偏りやすく諸葛菜  
三国志マンガで読んで諸葛菜  
諸葛采虚実まじりて道端に

一人旅理由はないが揚雲雀  
若き娘の彼岸参りは原宿へ

ゆらゆらと誰がが愛でるか柳花  
喇叭水仙一輪咲いて存在感  
喇叭水仙黙って咲いて我慢かな

春昼や道の駅にて葱一把



春昼の自由不自由御鈴鳴る  
ジャズ流れけだるさ深し春昼や

ただそこに花を咲かせる山桜  
水源といふ場所に咲く山桜

禿げ頭雨がすうふつ初桜  
庭の鉢今年もそこに初桜  
薄紅も一輪二輪初ざくら  
二人とも後期高齢花を待つ

椿咲く上下左右に主張して  
判決は死刑となりし椿落つ  
落つるときバンジージャンプ椿かな  
落ち椿量つてみようその重さ  
紅椿落ちたその後シナリオは  
椿落つ死は易きもの真似したく



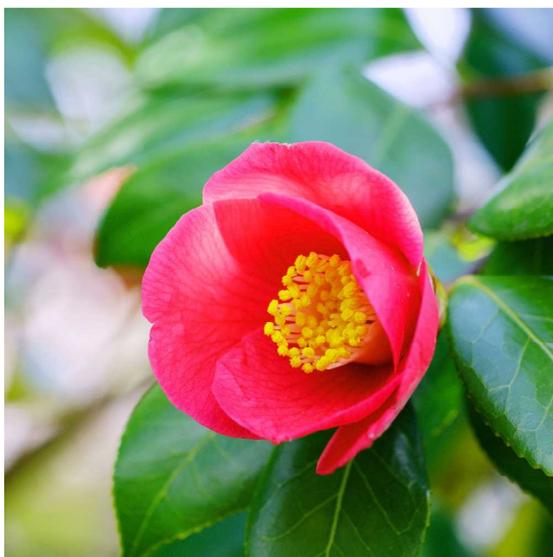
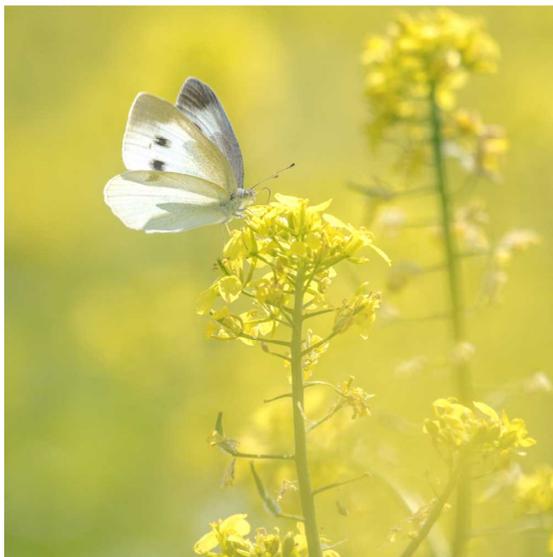
桜見る人はよき顔善人に  
桜咲く世の中すべて他人かな  
桜待つ昭和の仲間連れそいて  
ロマンスカーさくらさくらの箱根へと  
隅田川花の向こうにスカイツリー  
瀬戸の島さくらの白も穏やかに  
夜目遠目染井霊園桜咲く

春が来て開け放つ窓いさぎよく  
春なれど虚実現実大都会  
人間は弱い生き物おぼろかな

春雷やおそば屋さんの昼間酒  
雹降らしときに憤怒の春雷や  
春雷や椿を散らし去りにけり  
採用もⅡ任せ春の雷  
コロナ下に鳥は自由に嘯りて



鳥帰るそこは平和な国ですか



モロロク俳句

三月や寒暖格差モロロクす  
モロロクはこういうことか春めける  
三月が来るとモロロク持ち直し

モロロクし生老病死露の臺  
露味噌の苦きを好みモロロクす  
露味噌でモロロクしばし忘れけり  
モロロクし露のしゆうとめ花ほうけ

流し雛モロロクすれば流れたし  
雛を手に霞のなかのモロロクや

モロロクしうぐいす餅にむせており  
啓蟄やモロロクすれどいけるもの  
啓蟄の定めに生きてモロロクす



モーロクし香り気づかず沈丁花  
モーロクしメモを忘れて桜草

モーロクし胃の腑に吹くか春一番  
春一番巢鴨に住みてモーロクす

モーロクしそれもよいかと落椿  
モーロクし引き際美学椿落つ

春の雪モーロクすれど命知る  
モーロクし多くなる嘘春の雪  
モーロクし吐息を残し春の雪

たんぽぽとつぶやく日々やモーロクし  
たんぽぽやぽぽとつぶやくモーロクし  
モーロクしたんぽぽ咲いて安堵する  
蒲公英やモーロクすれば虚ろなり



モーロクしモーロクといる春の夜  
モーロクし雪柳こそうらやまし  
モーロクし綻び寂し雪柳

モーロクしオタマジャクシに何故足が  
モーロクし蝶の区別も難しく  
モーロクし幸せさうに蝶を追ふ

薔薇の芽や心折れたるモーロクし  
モーロクし死んでモーロク草木の芽  
モーロクし吾を運ぶか涅槃西風

亀鳴くやモーロクすれば分かること  
モーロクしなぜか聞こえし亀の鳴く  
モーロクし南無阿弥陀仏亀が鳴く

モーロクし持て余し気味花海棠  
また春やモーロクすれど菫咲く



モーロクし空気のように春の日や  
モーロクし不良老人春日なか  
春の日やつまらなきままモーロクす

モーロクし自由不自由春昼や  
春昼の空虚の中にモーロクす  
モーロクしもろもろの影春昼や

モーロクし風船ひとつあの世まで  
モーロクし消えいるばかり春の虹

モーロクし命ある今日初つばめ  
命あるモーロクすれど初つばめ

多事多難モーロクすれど桜咲く  
モーロクし息を大きく初櫻  
モーロクし自愛ほどほど初桜  
桜咲くどれ程見たかモーロクす



もどかしさモーロクすれば花の雨  
モーロクしもどかしくあり花の雨

モーロクし何を戸惑う春の夢  
モーロクし輝き失い春の夢  
モーロクし昼まで眠る春愁い

まはり皆モーロクばかり朧かな  
モーロクしあの世のことか春の雷  
モーロクし予定は未定春の雷  
春の雷あれは何だとモーロクす



たべもの俳句

味噌汁の浅蜷で今日の運不運

雨模様ふたりで食べる桜餅  
七福神向島にて桜餅

ちらし寿司春につくれれば春の山  
春が来てみたらし団子だんご愛  
焦げうましみたらし団子春巢鴨

魔がさして俺のステーキ春の雪  
浅草通焼きスパ食べる春が来る

すかんぽを少しかじって覚酔す  
昭和の子すかんぽおやつ豊かなり



さつと火を香り食感せりナムル  
春の雪青菜おひたし朝餉かな

ポテトサラダ山椒風味に春の風  
フライパンちりめんじやこが踊りけり  
春が来てデカ盛りパスタ持て余し

春が来たどら焼き食べた胸焼けた  
黄菊と春菊合わせおひたしに  
よなぐもり熱きココアとよなぐもり

春キャベツ刻み刻んで納得す  
台所明るき響き春キャベツ  
レタス噛む入れ歯はにかみ眩しがる

湯に入れる緑一面生わかめ  
生わかめ驚き慌て熱湯かな  
生わかめ酢味噌で和えて一品を



つんとくる刺激求めて山葵漬  
蛸烏賊酢味噌の海を泳ぎけり

青菜炒め野菜の旨味春ならば  
瀬戸内の鱈季節と吟醸酒

ペペロンにたつぷりシラス山盛り  
に花冷えや月見うどんのお昼かな  
ジャズ聴いて岡山の酒桜咲く

デカ盛りにギブアップする春うらら  
菜の花を茹でて混ぜ寿司ヘルシーに  
たらの芽の白あえサラダほろ苦く  
さや豆をさっと炒めてオイスター  
茹で玉子今日は固茹で春霞



あのと  
言ひ  
夫婦の  
話草の  
餅  
柴又  
帝釈  
天寅  
さん  
恋し  
草餅  
屋





